困った時のお役立ち連絡先

夜間や休日に体調が悪くなったり、ケガをしたときは、
まずかかりつけ医に連絡をするか、
1の小児救急医療電話相談をできる限りご利用ください。

1 小児救急医療電話相談

お子さんの夜間のケガ・急病等の際、応急対処の方法や受診が必要かどうか等について助言を行います。

対象者●佐賀県内に居住するおおむね15歳未満の子供の保護者等
時間　●毎日午後19時～午後23時（年中無休）
相談先●携帯電話／プッシュ回線:#8000
その他の固定電話回線:0952-24-2200

2 休日、夜間などの小児の受診医療機関

（急な熱や咳、かぜ、下痢、嘔吐、腹痛など軽症の場合）

中部保健医療圏

佐賀市休日夜間こども診療所 …… 0952-36-9174
診療時間 平日●午後8時～午後10時
土曜日●午後5時～午後10時
日曜日・祝日・12月31日～1月3日●午前9時～午後10時まで

東部保健医療圏

鳥栖市休日救急医療センター …… 0942-83-0119
診療時間 日曜日、休日、1月2・3日、12月31日●午前9時～午後7時

北部保健医療圏

唐津救急医療センター …… 0955-75-5199
診療時間 日、祝、振休、12月31日、1月2・3日●午前9時～翌朝6時
1月1日●午前10時～翌朝6時

西部保健医療圏

伊万里休日・夜間急患医療センター …… 0955-23-9910
診療時間 <夜間>平日●午後8時～10時（小児科）
<休日>日、祝、12月31日～1月3日
●午前9時～午後5時（内科、外科、小児科）
※土曜休診

南部保健医療圏

武雄地区休日急患センター …… 0954-22-5599
診療時間 日・祝●午前9時～午後5時

鹿島市休日こどもクリニック …… 0954-63-1838
診療時間 日曜、祝日、正月1/1～1/3
●午前9時～午後5時

南部地区小児時間外診療センター …… 0954-22-5599
診療時間 月・木・金・土・日・祝
●午後7時～午後9時

南部地区小児時間外在宅当番医 …… 0954-22-4207
（杵藤地区消防本部）
診療時間 火曜日（正月1/1～1/3は除く）
●午後7時～午後9時

鹿島時間外こどもクリニック …… 0954-63-1838
診療時間 水曜日（正月1/1～1/3は除く）
●午後7時～午後9時

妊娠、出産に影響する感染症って？

妊婦健診後、何に気をつけたらいいの？

妊婦健診の検査結果は
母子手帳の「検査の記録」のページに
記載されます。

特に赤ちゃんに影響のある
感染症（母子感染症）は、
感染していなくても、今後も注意が必要です。

母子感染を起こす主な感染症と対策方法

監修
佐賀大学 肝疾患センター
公益社団法人
佐賀県産婦人科医会

ご相談先
（平日のみ）

1. かかりつけの産科医へご相談を
2. 佐賀大学　肝臓なんでも相談センター　0952-34-3731（10:00～16:00）
3. 佐賀大学HTLV-1専門外来　0952-34-3786（9:00～17:00）
4. 佐賀大学医学部附属病院　0952-31-6511（9:00～17:00）
   佐賀県医療センター好生館　0952-24-2171（8:30～17:15）

梅毒血清反応	梅毒検査です。 お母さんは出産前に抗生剤で治療します。	＋ 感染している（可能性がある）	→お母さんの治療が必要。パートナーの検査も必要	1
		－ 感染していない	→性交渉により、パートナーから感染（性感染症など）する可能性があるため、妊娠中・出産後も注意が必要。	
HBs抗原	肝臓を壊すB型肝炎ウイルスの検査です。 出産時に赤ちゃんにうつる可能性がありますが、ワクチンなどの適切な処置で感染をほとんど防げます。お母さん自身は、放っておくと肝硬変や肝がんになる可能性があるので、定期的な検査をおすすめします。	＋ 感染している（可能性がある）	→お母さんの治療が必要。パートナーの検査も必要	2
		－ 感染していない	→性交渉により、パートナーから感染（性感染症など）する可能性があるため、妊娠中・出産後も注意が必要。	
HIV抗体	エイズの検査です。 陽性が疑われれば精密検査を行います。 結果は直接医師がお伝えします。	＋ 感染している（可能性がある）	→お母さんの治療が必要。パートナーの検査も必要	4
		－ 感染していない	→性交渉により、パートナーから感染（性感染症など）する可能性があるため、妊娠中・出産後も注意が必要。	
クラミジア抗原	クラミジアという病原体の検査です。 出産時に赤ちゃんにうつり、結膜炎・咽頭炎・肺炎・中耳炎などが起きます。 出産前に抗生剤で治療を行います。	＋ 感染している（可能性がある）	→お母さんの治療が必要。パートナーの検査も必要	1
		－ 感染していない	→性交渉により、パートナーから感染（性感染症など）する可能性があるため、妊娠中・出産後も注意が必要。	
HCV抗体	肝臓を壊すC型肝炎ウイルスの検査です。 出産時に赤ちゃんにうつる可能性があります。 出産方法は主治医が判断します。陽性であれば精密検査をします。 ウイルスがいれば、お母さんの治療が必要です。	＋ 感染している（可能性がある）	→お母さんの治療が必要	2
		－ 感染していない	→多くの場合、今後も心配はない	
β群溶血性連鎖球菌（GBS）	お母さん自身には影響はありませんが、 赤ちゃんにうつると、肺炎や髄膜炎を起こす可能性がありますので 出産前に抗生剤で治療します。	＋ 感染している（可能性がある）	→お母さんの治療が必要	1
		－ 感染していない	→多くの場合、今後も心配はない	
HTLV-1抗体	九州地方に多く、白血病や神経の病気になることもあります。 出産時や母乳を通じて感染します。	＋ 感染している	→母子感染の予防が必要	3
		－ 感染していない	→多くの場合、今後も心配はない	
風疹ウイルス抗体	風疹ウイルスにかからないようにする抗体があるかないかの検査です。	－ 感染を防ぐことができない	→妊娠中は風疹ワクチンの接種ができません。お母さんに感染しないよう、感染予防が必要です。同居家族は予防接種をしましょう。	1
		＋ 感染を防ぐことができる	→抗体（＋）でも抗体量が少ない（16以下）方は、感染する可能性があります。外出を控える、マスクや手洗いをするなど感染予防に気を付けましょう。	